

# 季節風

2015.11.9

No.25

山鹿市立鹿北中学校

文責：郡 一路

## 「尊敬のジャージ」を着よう！

四日（水）、一年生の道德の授業をさせてもらいました。「ラグビーを通して伝えたいこと」をテーマに、ラグビー日本代表と帝京大学の二つのチームの強さの秘密に迫りました。日本代表はジャパンウェイ（日本流）を四年間で創り上げたことで、あの強豪国の南アフリカに勝利しました。



日本の「強み」を生かすための「戦術」を徹底し、世界一厳しいと言われる「練習」に挑戦し、つくられた「ジャパンウェイ（日本流）」。一年生にも、ぜひ、自分の「強み」を生かした「生き方」を見つけ、徹底して自分を鍛える「カホクウェイ（鹿北流）」を見つけたいと伝えました。

帝京大学ラグビー部は、六年連続で学生日本一であり続けています。その強さの秘密に迫りました。帝京大学には、「尊敬のジャージ」という文化があります。これは、普段の生活の中で、いかにいかに生活面倒なことでも、率先してできる、チームのために率先して何かができる部員に



**YUKIMA**

誰も見ないだろうという細かい所を、きれいに掃除する。



**MISATO**

散歩中ゴミ拾いをしている。朝のランニング中出会った人に元気な声で挨拶している。



対して、感謝の心を表すために「尊敬のジャージ」を贈るといふことです。それは、目には見えないけど、絶対に古くならない、お金では買えない「尊敬のジャージ」です。岩出監督は、「小さな」ミミを拾う、掃除を丁寧にする、そういうことの大切さがわかっていて、そういうことを進

んでやれる選手が、最終的にはねばり強さ、心の強さをもったプレーができるよい選手に、そして、何より、よい人間になれる。」と語っています。

また、キャプテンも、「新チームになった時、『全員が尊敬のジャージを着て卒業しよう』という話をして、僕たちの学年はスタートしました。」「尊敬のジャージを着ることのできる人が次々と出てくるような集団になったことが、帝京大学ラグビー部の強さの秘密です。」と話していました。帝京大学には、「尊敬の



私は、鹿北中にも「尊敬のジャージ」を着ることができ、人を増やしたい。そして、もっともっと人が育つ風土をつくりたいと伝えました。



1年生一人ひとりが、自分の成長にもつながり、他の人のためになる行動を考えました。その行動を継続してほしいと思います。

(校長室前掲示板に掲示中)